



食包協会報 第 187 号 (2025 年 7 月号) ご案内

平素は「食包協会報」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。このたび 187 号 (2025 年 7 月号) を公開致しました。今号では「紙」をメインテーマに、4 編の記事を掲載しております。

まず最初の記事では、株式会社クラウン・パッケージ全社営業統括広報室の大金正明様に「第三の紙資源「パームヤシカサ繊維」の有効活用」と題しましてご執筆いただきました。こちらの記事からは、第三の紙資源として位置付けられる「パームヤシカサ繊維」が、一度役目を果たした素材を有効活用したサステナブルなパルプ素材であることが伺えます。

2 つ目の記事では、東罐興業株式会社技術開発本部執行役員副本部長の石塚耕一様に「環境配慮型紙コップの最新技術と新製品」と題しましてご執筆いただきました。こちらの記事では、その構造上金属缶、プラスチック容器、ガラス瓶などに比べ密封性が劣っているイメージが強い紙コップの課題を解決する最新の機能拡張技術を含めた製品技術と、これまでの紙コップの歴史を紹介されています。循環型社会の実現に向けて、「環境にやさしい包装資材」の紙コップは今後も重要な役目を果たしていくと思われます。

3 つ目の記事では、セツカートン株式会社伊丹工場営業部包装開発課の木野元朝幸様に「食品用段ボール提案事例～「流通用スマイルトレイ」～」と題しましてご執筆いただきました。使用後の分別回収やリサイクルが確立された環境に優しい包装である段ボールを活用した「流通用スマイルトレイ」を中心に食品向け段ボールの提案事例をご紹介します。形状の一部がスマイルマークに似ていることから、トレイに関わる方々全員の「笑顔」を願ってネーミングされたとのこと、開発現場のあたたかさが伺えます。

4 つ目の記事では、北越コーポレーション株式会社商品開発室の沓名稔様に「紙を用いた包装材料の開発動向」と題しましてご執筆いただきました。環境負荷低減、資源循環、フードロス削減といった社会課題への対応に貢献する紙製包装材料として、高機能紙容器「Halopack®」、ヒートシール紙「PANSE®」、食品の鮮度保持に寄与する「酸素バリア紙」、耐水耐油紙「ポエム®」の 4 品種を紹介いただいています。

弊協会広報活動委員会では、これからも会員の皆様にとって有益かつ魅力ある記事の発信に努めていきたいと考えております。引き続きご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ執筆を快くお引き受け下さいました大金様、石塚様、木野元様、沓名様に心から厚く御礼申し上げます。

2025 年 6 月 30 日

広報活動委員 吉田 恵理